



「裾野市人口ビジョン」の出発点

- 当市は、昭和30年代から企業集積が進み、人口が増加するとともに経済が活性化し、成長を遂げた。
- 「世界遺産 富士山」「かんがい施設遺産 深良用水」などの世界水準の資産に加え、豊かな地域文化や、今も息づく地域コミュニティなどの魅力が、市内外に伝えきれていない課題がある。
- 東京から100km圏内の田舎である裾野市の「らしさ」を追求したまちづくりを進める。

当市における人口問題の現状

- 2010年国勢調査まで当市人口は増加してきたが、全国的な人口減少社会の中、人口減少局面に突入した。
【裾野市人口】2010年10月:54,546人→2015年6月:53,035人
- 総人口は2010年まで増加してきたが、年少人口(15歳未満人口)、生産年齢人口(15歳～64歳)は既にピークを過ぎ、老年人口(65歳以上人口)が増加する少子高齢化の傾向が進行している。
【年少人口】ピーク・1985年10月:11,530人→2015年6月:7,684人
【生産年齢人口】ピーク・2000年10月:36,896人→2015年6月:33,091人
- 一方で、高い出生率を主因に、自然増の傾向を保っている。
【合計特殊出生率】2008年～2012年:1.82＝静岡県内市町では長泉町と並んでトップ
【出生数】ベビーブーム期には800人を超えた。近年でも600人前後を維持。
- 高い出生率にも関わらず、年少人口が減少するのは、社会減が大きな要因。社会減では、30歳代の男女及びその子ども世代の流出が顕著。
- 最近20年間で昼夜間人口比率(夜間人口＝常住人口を100とした昼間の人口)が100を超え、昼間、人口が流入する地域に変貌した。
【昼夜間人口比率】1990年:93.3→2010年:107.4

目指すべき将来の方向

○ 世代間バランスを重視した人口政策

人口減少の問題は、総人口の議論はもちろん、年齢階層別の議論も必要。当市においても総人口の減少に先んじて少子高齢化が進行していることから、年齢構成を踏まえた人口政策に取り組む。

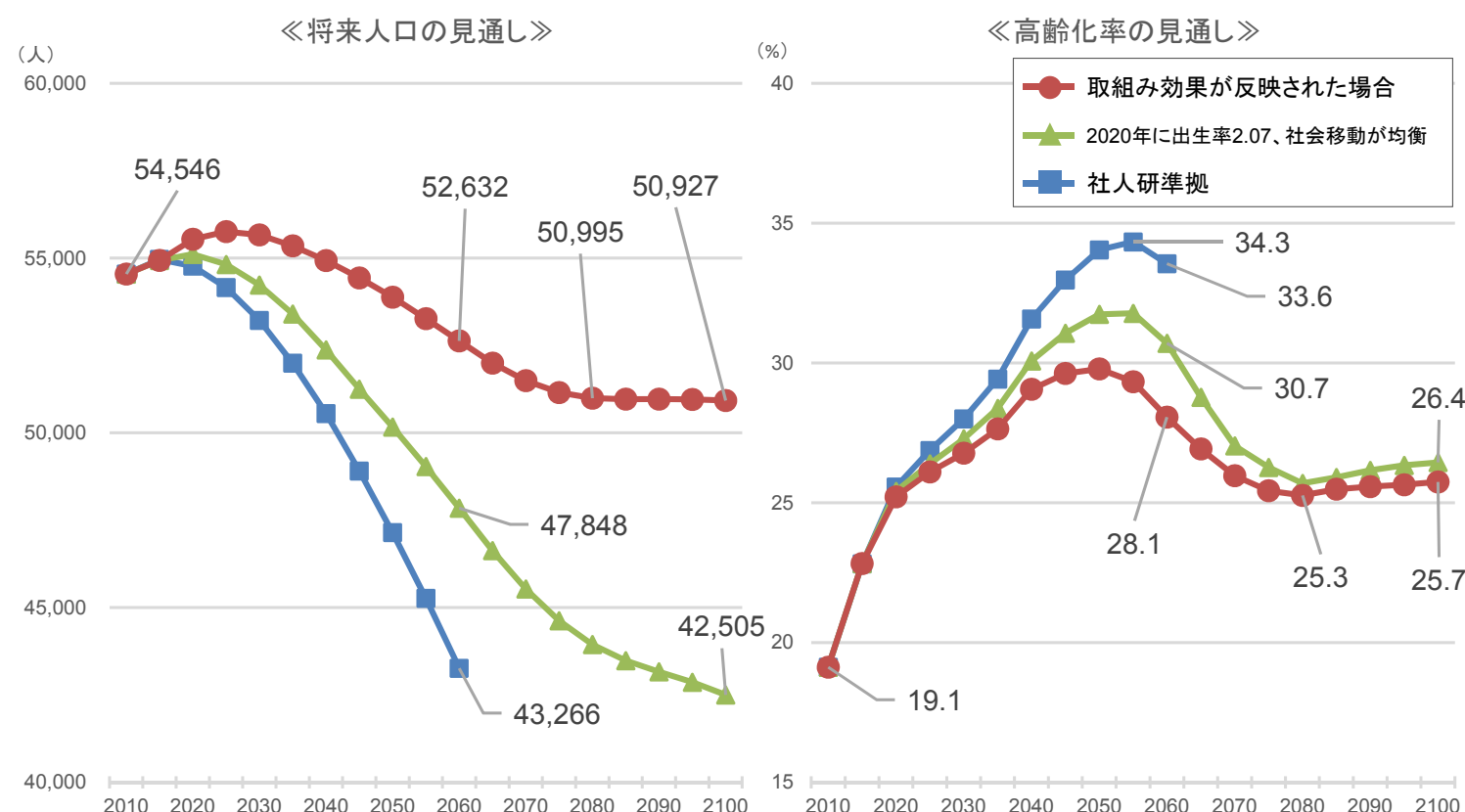
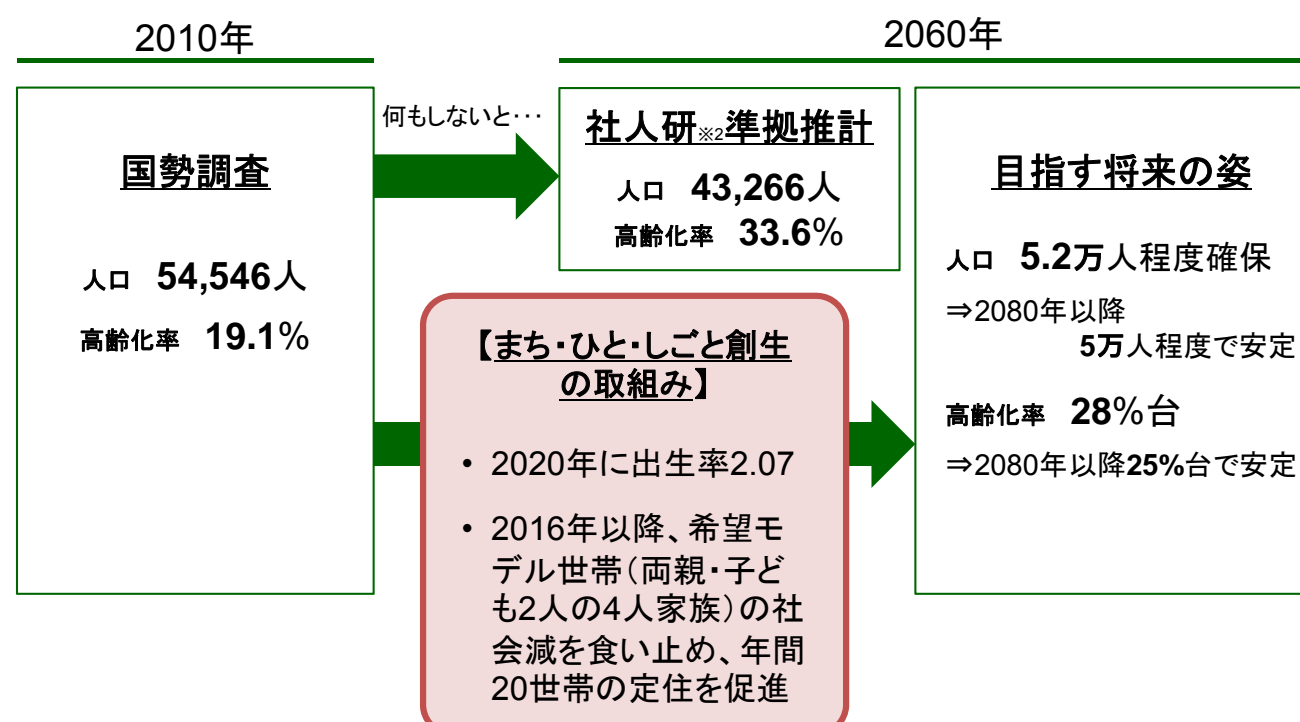
○ 結婚・子育ての希望に応える

少子化の問題は、年齢構成を踏まえた人口政策の重要な問題。当市は出生率が比較的高い現状にあるが、市民の希望をかなえるには至っていない※1。人々の希望がかなう地域づくりにより、少子化に歯止めをかける。

○ 暮らしたい・働きたいの希望に応える

当市における人口減少の主因は、子育て世代の社会減。誰もが住みたくなる地域づくりにより高い出生率というポテンシャルを引き出し、さらに多様な働く場を創出することで人々を呼び込み、社会減の流れに歯止めをかける。

人口の将来展望



(国県の動き)

	国長期ビジョン 2030～2040年頃に出生率2.07に回復	静岡県長期人口ビジョン 2020年に出生率2.07・社会移動均衡
人口	2060年に1億人程度確保 2090年頃に定常状態(9千万人)	2060年に300万人程度確保 2090年以降290万人で安定推移
高齢化率	2090年頃に27%程度	2080年以降25%程度で安定

※1 当市の合計特殊出生率は、H20～24で、1.82。一方で、平成26年度の市民意識調査では、既婚者の希望する子どもの人数は2.55人。
※2 社人研:国立社会保障・人口問題研究所「社人研準拠」とは、社人研による将来推計人口の試算に準拠した数値。